

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年8月3～9日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」 地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」～退院支援について～
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年8月3日(木) 昭和公民館(参加者21名)

- ・「地域包括ケアシステムについては、皆さん首を傾げる様子が見受けられました。」
- ・自分が亡くなる事とか考えていますか?の問いにうなずかれる方が半数ほどでした。
- ・皆さんの希望としては、「いつまでも自宅で過ごして行きたい。」「ピンピンころりで亡くなりたい」がほとんどでした。
- ・「健康寿命も、平均寿命も越えているよ!!」と元気にお答えされていました。
- ・病院は治療が終わったらすぐ退院と云われると思ってました。

(まだまだ実感はないけど、これから考えないといけない事ですよえとの反応が多かった印象でした。マイライフノートを夫婦で書いておこうと話された方もありました。お帰りの際に、参考になりましたとのお言葉を頂きました。)

平成29年8月8日(火) 祇園町公民館(参加者10名)

- ・「いつまでも自分の家がいいです...!!」「やっぱり施設はいやです!!」
- ・できるだけ、ポックリ死ねればいいです。延命治療とかしてほしくないと思います。
- ・認知症になった時、自分でわかるものなんですか?それが心配です。
- ・一人暮らしです。これから先、家の掃除とか、買い物とか自分でできなくなってくると、子供たちも遠くにいるし、こんな時相談してサービスとか使えたら安心です。

(今回の話は自宅に帰られた事例とかだったが、うまくいかなかった事例等も聞いてみたかった。)との意見もありました。まだ介護について実感がない方もいらっしゃいましたが、一人暮らしで今現在不安に思っている話など聞かせて頂きました。)

平成29年8月9日(水) 木場公民館(参加者9名)

- ・「こんな話を、嫁さんや、自分の子供達にも聞いてもらいたいと思います。」
- ・「いつまでも、自宅で暮らして行きたいです。お家の方がお金もかからんと思います。」
- ・「この集落は90歳以上でも元気な人が多かよなあ...」「元気にお家で暮らしてポックリ死んでいけたらいいんですよえ...」「ここに来てみんなと話をすることが楽しいです。」
- ・夫を自宅で見てあげたいと思いますが、自分自身も高齢であちこち体が心配だし、介護は出来ないと思います。

(話の合間に色々な思いを云われたり、皆さんでうなずかれたり、和やかな中にも熱心に聴いて頂いた印象でした。90歳以上を方も数名いらっしゃいましたが、周囲の皆さんが自然な感じで心配りをされていました。集落の繋がりを強く感じました。)



(昭和通公民館)



(祇園町公民館)



(木場公民館)